

環境活動レポート

2014 年度版

(第 8 版 : 2014 年 4 月 ~ 2015 年 3 月期)

2015 年 5 月 10 日作成

株式会社 千葉環境ビジネス

代表取締役	環境管理責任者
	



■地球を守る「護美」最前線

株式会社 千葉環境ビジネス 代表取締役 大森 倅次

人間の暮らすところには必ず廃棄物が発生します。ゴミは人の営みの証しと言えるでしょう。温暖化や大気汚染など地球の環境に大きな変化と破壊が進行する中、廃棄物の問題は、現代社会のもっとも深刻な課題のひとつとなりました。かつて廃棄物処理は3Kと呼ばれた業界ですが、今や時代の最先端業種といっても過言ではありません。

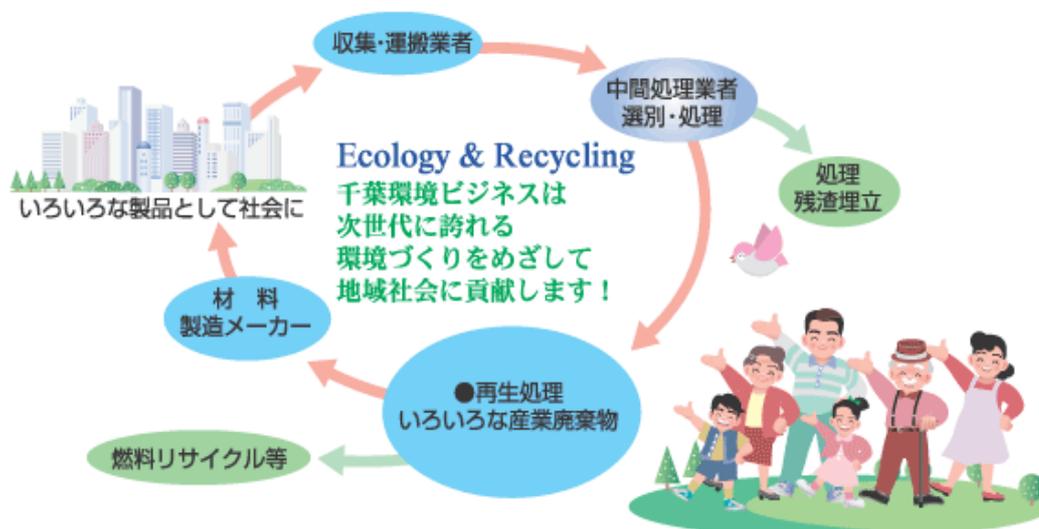
山林への不法投棄や廃油放置などのニュースが流れ、ともすれば「やっかいもの」と思われがちな産業廃棄物ですが、その多くは、分別・破碎・圧縮などの処理により、再利用可能な形に生まれ変わります。

千葉環境ビジネスは創業以来「産業廃棄物」を専門に扱い、適正な処理で地球レベルの環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献してまいりました。

「廃棄物」という言葉には、不要のもの・価値のないものというニュアンスがあります。しかし実はゴミには、価値を創出する無限の可能性が秘められているのです。私どもの仕事は、その可能性を引き出すひとつの重要なステップだと考えています。

昔、ゴミ箱は「護美箱」とも書かれました。これは、ゴミの適正処理で地球の美しい環境を守る千葉環境ビジネスの姿勢には、まさにぴったりの言葉でしょう。

私たちの仕事は最先端の「護美」ですと、今こそ胸を張って申し上げたいと思います。これからも、エコアクション21環境経営システムを活用し、地球と社会に役立つ「護美」の仕事に邁進して行きます。



1. 環境方針

企業理念

千葉環境ビジネスは「護美」の心をモットーに、地球の美しい環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献しています。

これからも一層、ゴミの価値を創出し、当社の関係する環境関連法等を遵守し、地球温暖化防止と循環型社会に貢献するために、以下の環境目標に取り組めます。

行動指針

1. 環境関連の法規制、及び当社が同意した業界等の行動規範を順守します。
2. 排出事業者とともに再資源化方法の検討や当社の選別作業の強化により、受入廃棄物のリサイクルを促進します。
3. 省エネ・省電力対策を推進し、CO₂ガスの排出量を抑制します。
4. 雨水の利用や節水により、水使用量の削減を計ります。
5. 自社からの廃棄物の排出を削減します。
6. グリーン購入を積極的に推進します。
7. 環境方針は、全従業員に周知するとともに、公表します。

2007年8月21日制定

2011年6月1日改訂

株式会社 千葉環境ビジネス
代表取締役 大森 悌次

2. 組織の概要

・ 名 称	株式会社千葉環境ビジネス
・ 代 表 者	代表取締役 大森 悌次
・ 設立年月日	平成8年4月18日
・ 資 本 金	1,000万円
・ 所 在 地	本社： 千葉市緑区あすみが丘東1丁目28番15号 中間処理施設： 千葉市若葉区中野町1691番地7、9、11の一部
・ 環境管理責任者	専務取締役 飯島 伸行
・ 担当者連絡先（電話・メール）	壁 明彦 (TEL：043-205-2401、Email：info@chibakankyo.co.jp)
・ ホームページのURL	http://www.chibakankyo.co.jp

3. 事業の規模

年 度 (4月～3月)	2012 年度	2013 年度	2014 年度
廃棄物処理量 (t)	18,233	24,440	27,456
売上高(百万円)	746	762	946
従業員	23	24	24
延べ床面積 (平方メートル)	6,055 m ² (H24.2 施設面積を拡張)	6,055 m ²	6,055 m ²

4. 登録範囲

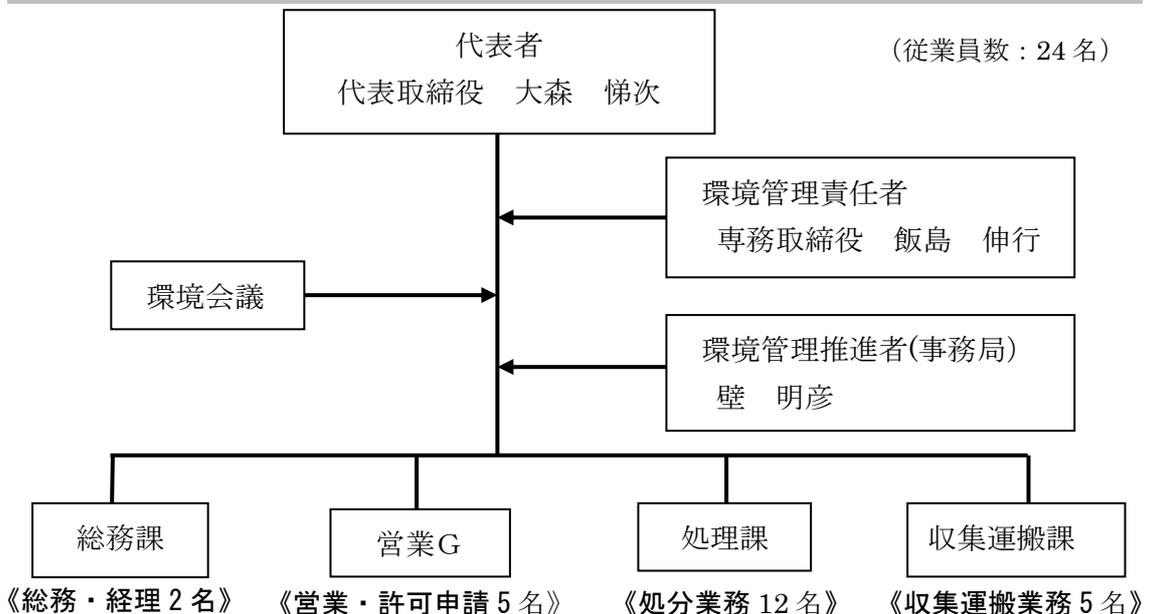
4.1 登録事業所

- ・ 本社：千葉市緑区あすみが丘東1丁目28番15号
- ・ 千葉環境リサイクルプラント(中間処理場)：千葉市若葉区中野町1691番地7

4.2 事業内容

- ・ 産業廃棄物中間処理業
- ・ 産業廃棄物収集・運搬業
- ・ 特別管理産業廃棄物収集・運搬業
- ・ 金属くず・古紙及びプラスチック類のリサイクル業
- ・ 鉄鋼及び非鉄金属類の売買業

5. 組織図



<役割・責任>

代表者：環境方針の策定。代表者による EA21 活動の見直し。必要な経営資源の投入。
 環境管理責任者：環境経営システムの確立・実施・維持。社長見直し時に状況報告。
 環境管理推進者：事務局、EA21 活動及び結果の報告。

7. 環境保全技術に関する資格保有状況

[7-1] . 環境保全技術に関する資格取得状況

① 収集・運搬に関する資格取得状況

	2012年度	2013年度	2014年度
・安全運転管理者	1名	1名	1名
・大型自動車第1種	4名	5名	6名
・小型移動式クレーン	4名	2名	2名
・玉掛	3名	3名	4名
・危険物乙種第4類	2名	3名	3名

② 処分施設に関する資格取得状況

	2012年度	2013年度	2014年度
・車両系建設機械（整地）	7名	7名	7名
・フォークリフト技能	3名	3名	4名
・危険物乙種第4類	1名	1名	2名

[7-2] . 産業廃棄物の処理に係る講習会修了者

産業廃棄物および特別管理産業廃棄物処分業の許可申請に関する講習

①（特別管理産業廃棄物収集・運搬課程）

財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

平成23年2月25日 第310149082号 1名

②（特別管理産業廃棄物処分課程）

公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

平成26年10月30日 第414136039号 1名

8. 廃棄物処理施設・収集運搬等の状況

〔8-1〕 処分施設

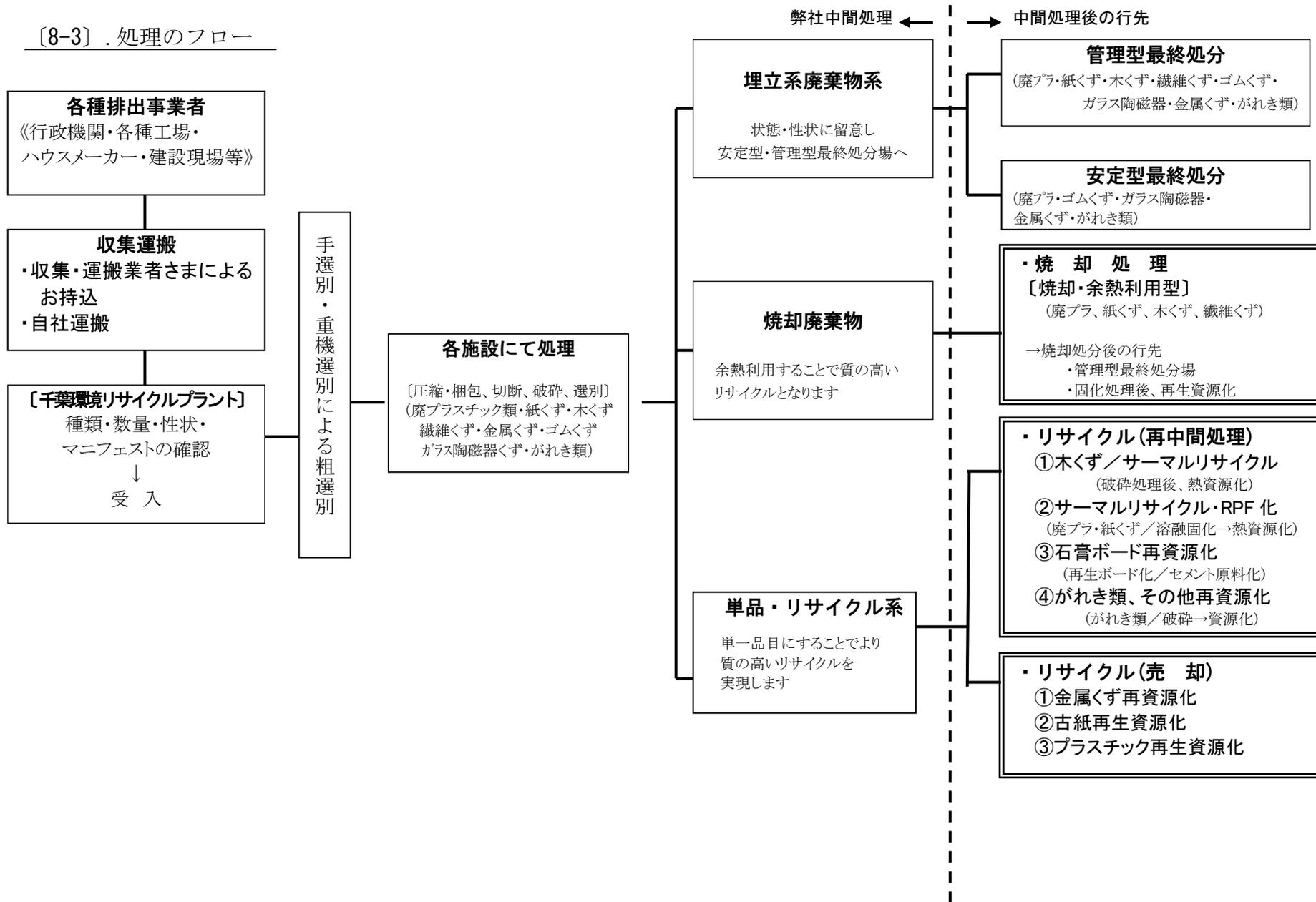
施設の種類(設置年月日)	取扱品目	処理能力	数量
圧縮・梱包施設 (H15. 7/4) (H18. 3/20 繊維, ゴム追加)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず ガラスコンクリ陶磁器 ゴムくず 金属くず	5.34t/日 22.24t/日 69.92t/日 22.48t/日 25.20t/日 3.58t/日 2.96t/日	1
切断施設 (H18. 3/20) (H19. 3/12 紙, 金属, ゴム追加)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず 紙くず 金属くず ゴムくず	3.58t/日 4.92t/日 3.58t/日 3.60t/日 3.20t/日 4.32t/日	1
破砕施設 (H19. 3/12) (H24. 2/22 破砕機の変更)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず	3.58t/日 4.92t/日 3.58t/日	1
選別施設①(ふるい機①) (H24. 2/22 ふるい機追加)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 がれき類	133.32t/日	1
選別施設②(ふるい機②) (H19. 3/12 設置) (H20. 8. 20 ふるい機の変更)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 がれき類	134.4t/日	1
施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691-7、1691-9、1691-11 の一部 (H24. 2/22 施設面積の拡張)			

[8-2] . 保管施設

施設の種類	保管面積	保管高さ	保管上限	数量
がれき類	36.83 m ²	1.40m	40.19 m ³	2
廃プラスチック類	36.83 m ²	1.40m	40.19 m ³	1
ガラス,コンクリート及び陶磁器くず	36.83 m ²	1.40m	40.19 m ³	1
(処理後) 廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	36.83 m ²	1.40m	40.19 m ³	1
金属くず	47.45 m ²	2.50m	72.85 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	47.45 m ²	2.50m	72.85 m ³	1
木くず	47.45 m ²	2.50m	72.85 m ³	1
(処理後) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず	47.45 m ²	2.50m	72.85 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	69.55 m ²	2.50m	106.79 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	63.70 m ²	2.50m	97.80 m ³	1
(処理後) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	63.70 m ²	2.50m	97.80 m ³	1
(処理後) 紙くず	7.99 m ²	—	8.2 m ³	1
(処理後) ゴムくず	7.99 m ²	—	8.2 m ³	1
(処理後) 廃プラスチック類	7.99 m ²	—	8.2 m ³	1
繊維くず	7.99 m ²	—	8.2 m ³	1
(処理後) ガラス,コンクリート及び陶磁器くず	7.99 m ²	—	8.2 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	7.99 m ²	—	8.2 m ³	6
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	53.89 m ²	2.38m	89.62 m ³	1

施設の種類	保管面積	保管高さ	保管上限	数量
(処理後) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	56.95 m ²	2.35m	96.15 m ³	1
(処理後) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	133.42 m ²	2.24m	226.0 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	58.83 m ²	2.42m	89.14 m ³	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	58.83 m ²	2.56m	91.04 m ³	1
製品保管施設	7.6 m ²	-	12.16 m ³	20
施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691-7、1691-9、1691-11 の一部 (H24. 2/22 施設面積の拡張) (H25. 2/13 保管施設の変更)				

[8-3] . 処理のフロー



〔8-4〕 収集運搬許可関係

8-4-1. 産業廃棄物収集運搬登録車両一覧

* 積替・保管施設は場内拡張に伴い、平成 23 年 8 月 23 日に廃止届出いたしました。

車両の形式	最大積載量	保有台数
脱着装置付コンテナ専用車	3,750 kg	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,800kg	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,850kg	2
脱着装置付コンテナ専用車	8,200kg	1
脱着装置付コンテナ専用車	8,000kg	1
キャブオーバ (クレーン付)	2,850kg	1
キャブオーバ	2,000 kg	1
ダンプ	2,000kg	1

合計車両台数 9 台

☆収集運搬登録車両の変更届出

排ガス規制と業務実態と精査した結果、脱着装置付コンテナ車を 1 台減車。

(平成 23 年 3 月 28 日届出)

業務実態と精査した結果、塵芥車を 1 台減車。

(平成 26 年 8 月 25 日届出)

〔8-5〕 産業廃棄物業実績

実 績	2012 年度	2013 年度	2014 年度
産業廃棄物収集運搬量	6,952 t	6,044 t	5,994 t
特別管理産業廃棄物収集運搬量	9 t	10.6t	0 t
産業廃棄物中間処理量	18,233 t	24,440 t	27,456 t
合 計	25,185 t	30,484t	33,450 t

〔8-6〕 廃棄物処理料金

・ 処分料金提示方法

産業廃棄物の処理料金につきましては、種類・性状・量・処理の難度等により変わるため、個別に算出・ご提示させていただきます。

9. 環境目標と実績（中期：2014～2016年度）

〔9-1〕第3次中期環境目標

項目		単位	基準年 (2013年度)	2014年度 (目標値)	2015年度 (目標値)	2016年度 (目標値)
電気使用量	リサイクル工場	kWh/年	61,040	△0%	△0%	△0%
				61,040	61,040	61,040
		kWh/処分量	2.50	2.42	2.36	2.29
	本社	kWh/年	10,038	△1%	△2%	△3%
				9,938	9,837	9,737
全社	kWh/年	71,078	△0.7%	△1.3%	△2%	
			70,978	70,877	70,777	
軽油使用量(重機)		L/年	145,306	△1%	△2%	△3%
				143,853	142,400	140,947
		L/処分量	5.95	5.71	5.50	5.29
軽油使用量(収集運搬車両)		L/年	46,992	+5%	+10%	+15%
				49,342	51,691	54,041
		km/L	5.62	5.67	5.73	5.79
ガソリン使用量(営業車両)		L/年	5,399	+3%	+6%	+9%
			5,561	5,723	5,885	
温室効果ガス排出量		kg/年	544,057	△0.2%	+1.0%	+1.5%
			542,992	545,721	548,450	
水使用量 (総排水量)	本社	m ³ /年	61	+12%	+12%	+12%
				75	75	75
	リサイクル工場		—	チェックシートで定性管理		
自社一般廃棄物の削減		kg/年	343	+0%	+0%	+0%
			343	343	343	343
産業廃棄物の収集運搬量		t/年	6,044	+2%	+4%	+6%
			6,165	6,286	6,407	
産業廃棄物の中間処理量		t/年	24,440	+3%	+6%	+9%
			25,173	25,906	26,640	
中間処理後の廃棄物量		t/年	1,758	△1%	△2%	△3%
			1,740	1,723	1,705	
グリーン購入		%	—	チェックシートで定性管理		

注) 電力の二酸化炭素排出量算出は、継続性確保のため、排出係数0.378kg-CO₂/kWhを用いています。

【設定の基本的な考え方】

- ①アベノミックスによる市況好転を受けて、産廃収集運搬量は毎年2%、中間処理量は3%増を図るが、エネルギー負荷は、原単位向上で使用量増の抑制を図る。
- ②収集運搬車、営業車は営業範囲の拡大で走行距離の伸びが予想されるため、燃費は維持しつつ、使用量は増加とした。

[9-2] 環境目標の活動計画とその結果 (2014年単年度)

区分	項目	2013年度の環境活動計画	評価	コメント
二酸化炭素の削減	社有車の軽油使用量の削減	① エコドライブ教育	△	エコドライブ意識が高まった
		② アイドリングストップ	○	実施できている
		③ 燃費管理データ収集	○	燃費は正確に把握出来た
		④ 定期点検の徹底	○	徹底出来ている
		⑤ エコカー切替へ推進	該当なし	—
	電気使用量の削減	① 節電告知ラベル貼付	○	ラベルを貼った
		② グリーン製品・機器への切替	該当なし	—
		③ エアコン省エネ設定運転	○	省エネ設定している。
		④ パソコン省エネモード継続	○	省エネモードを実施している
		⑤ クールビズ・ウォームビズの展開	○	実践できている
廃棄物の削減	最終処分量の削減	① 手分別作業の改善	○	細かく分別出来た
		② 分別作業の標準化	○	定期的に実地教育している
		③ 処分方法の見直し	◎	ふるい機を追加した
	リサイクルの拡大	① 排出事業者への分別提案	○	提案している
		② PR紙、環境活動レポートの配付	○	レポート配布している
		③ リサイクルネット整備・拡充	◎	リサイクル処理先の開拓が出来た
水資源・排水	地下水使用量の削減	① 浸透マスの整備	○	実施している
		② 雨水利用	○	利用している
		③ 洗車水、散水の節約	○	節水を実施している
グリーン購入	省エネ基準適合製品を購入する	省エネ型エアコンの購入	◎	新事務所にて省エネタイプを導入した。
	再生材料からの製品を優先購入	コピー用再生トナーの使用	○	再生トナーを使用している
	再生紙、未利用繊維への転換	再生紙の優先購入	○	再生紙を購入している

評価基準 (50%未満× 70%未満△ 90%未満○ 90%以上◎)

[9-3] 2014年度活動実績

(活動期間：2014年4月～2015年3月期での実績評価)

項目		単 位	2013 年実績	2014 年度		
				実行目標値	実績値	達成率(%)
電力使用 量	リサイクルプラ ント	kwh/年	61,040	61,040	54,069	113
		kwh/処分量	2.50	2.42	2.80	86
	本社	kwh/年	10,038	9,938	9,460	105
	全社合計	kwh/年	71,078	70,978	63,529	112
軽油使用量(重機) (リサイクルプラント)		L/年	145,306	143,853	121,271	119
		L/処分量	5.95	5.71	6.27	91
軽油使用量 (収集運搬車)		L/年	46,992	49,342	44,627	111
		km/l	5.62	5.67	5.40	95
ガソリン(営業車、本社)		L/年	5,399	5,561	6,873	81
温室効果ガス排出量(注)		Kg-CO2/年	544,057	554,445	473,219	115
水資源使 用量	本社	m ³	61	75	79	95
	リサイクルプラント	チェックシート	15	15	15	100
一廃の自社排出量		kg/年	343	343	318	108
産業廃棄物の収集運搬量		t/年	6,044	6,150	5,992	97
産廃物の中間処理量(注)		t/年	24,440	25,175	27,456	109
中間処理後の廃棄物量(注)		t/年	1,758	1,740	2,982	58
グリーン購入(チェックシート)		点	15 点	15 点	15 点	100
優良産廃処理業者認定制度				適合の認可	適合の認可	100

注：中間処理量及び処理後の廃棄物量は換算重量差補正後の量である。

【☆別表】 【処理量トンあたりに実績推移】

	単 位	2012 年度 実績値	2013 年度 実績値	2014 年度 実績値
中間処理量	t /年	18, 233	24, 440	27, 456
うち最終処分の割合	%	6. 2	7. 2	10. 8
軽油原単位	L/処理量	8. 7	7. 9	6. 04
電気原単位	kWh/処理量	3. 3	2. 5	2. 31
CO ₂ 排出原単位	Kg-CO ₂ /処理量	25. 0	22. 3	17. 2

[9-5] 2014 年度活動結果の評価・考察

1. 2014 年度の環境活動は、下記の特徴がある。

- ①本社移転に伴い、2013 年より本社の環境負荷調査とサイトとしての活動を開始した。
- ②工場に 2012 年 2 月に、篩機を導入し製品の品質向上を図った。このため、作業効率及び分別後の品質が向上し、資源化量が大幅に増えた。
- ③従来管理していなかったガソリン使用量も、目標値を設定して使用量抑制を図ると共に、廃棄物の収集運搬車、重機の燃費管理を強化し、軽油使用量の一層の削減活動を図った。

2. CO₂ ガスの排出抑制活動

(1) 電気の使用量

- ①工場の使用は篩機の導入で、処理量原単位が 12 年度に比して 75%まで削減された。処理量の増加を作業効率向上による節電で使用量が大幅に抑制できた。
- ②本社は、夏場よりも冬場の暖房使用が大きいことが分かり、灯油ファンヒーターを導入した。灯油及び LPG 使用量は実績値=目標値として、CO₂ 排出量に加算済み。

(2) 軽油使用量

- ①重機は篩機にかける前に一層の分別徹底を図ったため、処理量原単位が増加した
- ②収集運搬車は、安全運転の徹底で燃費が向上した。今後更にエコドライブの徹底を図り、燃費改善を図る。

(3) ガソリン使用量

営業距離増のため、目標値未達である。しばらく実績推移をも守る。

3. 産業廃棄物の収集運搬、中間処理、再資源化等

- (1) 産廃収集量は、最終処分費増による市況冷え込みを営業努力で、2013 年度実績を何とか維持した。次年度は営業強化により、収集量増を図る。
- (2) 中間処理量は、2014 年度は再資源化製品の販売強化等により、中間処理量が 2013 年度より約 10%増となった。再資源化量も 2013 年度より 47%増の 24,473t であった。篩機導入による成品品質向上が寄与した
- (3) 処理後の廃棄物については、中間処理量に対する発生比率では、7.2%から 10.8%に増加した。中間処理量確保のため、受入産廃の質の低下が避けられなかった。今後工場受入時の産廃の質確保が課題である

4. グリーン購入、優良産廃処理業者認定制度他

- (1) 優良産廃処理業者認定制度による優良産廃業者に、2013 年 5 月認定された。また、グリーン購入は計画通りの進捗である。
- (2) 化学品については、使用も取り扱いもない。

[9-6] 次年度の取組内容

2014年度実績値をベースに、2015年度以降の中期計画を見直した。

項 目		単 位	基準年 (2013年度)	2014年度 (目標値)	2015年度 (目標値)	2016年度 (目標値)
電気使用量	リサイクル工場	kWh/年	61,040	△0%	△5%	△7%
		kWh/処分量		2.50	2.42	2.16
	本社	kWh/年	10,038	△1%	△2%	△3%
				9,938	9,837	9,737
	全社	kWh/年	71,078	△0.7%	△1.3%	△2%
				70,978	67,825	66,504
軽油使用量(重機)		L/年	145,306	△1%	△5%	△6%
		L/処分量		5.95	5.71	5.13
軽油使用量(収集運搬車両)		L/年	46,992	+5%	+0%	+0%
		km/L		5.62	5.67	5.73
ガソリン使用量(営業車両)		L/年	5,399	+3%	+6%	+9%
				5,561	5,723	5,885
温室効果ガス排出量		kg/年	544,057	△0.2%	△4%	△5%
				542,992	520,795	516,896
水使用量 (総排水量)	本社	m ³ /年	61	+12%	+12%	+12%
				75	75	75
リサイクル工場			—	チェックシートで定性管理		
自社一般廃棄物の削減		kg/年	343	+0%	+0%	+0%
				343	343	343
産業廃棄物の収集運搬量		t/年	6,044	+2%	+4%	+6%
				6,165	6,286	6,407
産業廃棄物の中間処理量		t/年	24,440	+3%	+10%	+13%
				25,173	26,884	27,617
中間処理後の廃棄物量 (中間処理後の廃棄率)		t/年	1758 (7.2%)	7%	10%	10%
				1,762	2,688	2,762
グリーン購入		%	—	チェックシートで定性管理		

注) 電力の二酸化炭素排出量算出は、継続性確保のため、排出係数0.378kg-CO₂/kWhを用いています。

【見直しの基本的な考え方】

- ①2014年度実績から産廃収集運搬量は4%、中間処理量は10%増を図る。処理廃棄物の品質悪化のため廃棄率は増を、分別強化で抑制を図る。
- ②収集運搬車は積載率悪化のため若干の原単位増、重機エネルギー作業率向上で原単位減を図る。営業車は営業範囲の拡大で走行距離の伸びが予想されるため、燃費は維持しつつ、使用量は増加とした。

10. 代表者による見直し

H27年5月8日に社長による見直しを実施した

報告項目	管理責任者からの報告内容	結果
環境経営システム構築	本社の移転に伴い、EA21 推進体制を、職務組織の実態に合わせて改訂した。	○
環境目標	今年度は品質強化も加味して目標値を改訂して、活動に取り組んだ。安全品質面を強化した結果、燃費が増加傾向となったが、その他は目標値をクリアすることが出来た。 来年度は26年度実績を元に、中期目標値の見直しを実施したい。	○
環境関連法規制	環境法規制登録一覧表の様式を一新し、該当条文名と順守内容を明確にし、遵守体制を整備した。廃棄物処理法、フロン排出抑制法等の順守評価を中心に実施し、結果は満足した内容である。	○
外部から苦情・要望	環境に関わる苦情・要望等ない。	○
緊急事態の想定及び訓練	H26年11月13日工場火災を想定した訓練を実施。対応手順書の改訂は必要ないが、更に末端まで周知を図る必要がある。今後非常時は、呼集がかったら、身近な消火器をもって参集を指導する。	○
前年度見直し指示に対する是正状況	・手選別作業の改善を重ねた ・ふるい機に付帯施設を設置、更なる選別制度の向上を目指す体制が整いつつある	○
社長からの指示	・手選別による分別強化を図っているが、改善をもう一步の印象。最終処分単価増のため、リサイクル率向上が経営課題である。 ・処分後の行き先、現状のみならず拡充を図ること	

変更の必要性の有無	①環境方針	特に変更の必要はない
	②環境目標	H26年度の実績を元に、中期目標の見直しを図ること
	③環境活動計画	目標値達成のための具体的な計画を策定すること
	④環境経営システム	特に変更の必要なし

11. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

- ① 2015年3月に遵法性評価を行った結果、環境関連法規への違反はありません。
- ② 関係当局よりの指摘及び訴訟は、過去3年間ありません。
- ② 当社が遵守しなければならない環境関連法規等は次の通りである。

- ・廃棄物処理法
- ・道路運送車両法
- ・消 防 法
- ・道路交通法
- ・自動車NO_x・PM法
- ・振動規制法、騒音規制法
- ・労働安全衛生法
- ・フロン排出抑制法